2019年07月07日 新潟日報 朝刊 特集４面 016頁

(C)新潟日報社　無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します

地域の魅力 広く深く

「未来のチカラ・in上越」を振り返る

「未来のチカラin上越」は期間中、拠点施設となった上越市大町5の「日報―まちメディア」（旧今井染物屋）を中心に、上越地域3市で新聞に親しむイベントを多数開催した。紙面では特集や連載を通じて上越地域の魅力を広く発信した。取り組みを振り返り、事業に関わった市民に評価を聞いた。紙面特集やイベントに登場した元タカラジェンヌの越乃リュウさんには上越地域の可能性を語ってもらった。

（これまでの上越での取り組みは下のQRコードからご覧いただけます）

70のイベントに延べ2500人

未来のチカラin上越では3月からのプレ期間、5月からの本期間の4カ月間に、上越、糸魚川、妙高の3市で約70のフォーラム、講座、体験会、ツアーを実施し、延べ約2500人が参加した。新潟市中央区の新潟日報メディアシップでも3市のPRイベントを開催。多くの来場者が上越の食や観光を楽しんだ。

上越市の高田公園オーレンプラザでは6月後半の土曜、3週連続でフォーラムを開催。子どもからお年寄りまで計1000人以上が来場した。

5、6月の火～金曜に開設した「日報―まちメディア」では日本酒やワイン、シニア体操、ハンドヒーリングマッサージ、歴史、新聞コラムなどの講座やイベントを開催。約240人の参加があったほか、まち歩きを楽しむ個人・団体の観光客ら約260人を案内した。

糸魚川市本町の市営駅北復興住宅や妙高市朝日町1の「スペースあら・いー」などでも講座や体験会を開催。えちごトキめき鉄道のイベント列車や親鸞のゆかりの地を巡る旅など六つのツアーでは、新潟市などから参加した約230人が上越地域の魅力を感じていた。

1新潟日報メディアシップを訪問したうみがたりのペンギン2妙高市のインバウンドを題材にした鄭美愛・韓国総領事の講演3居多神社などを訪ねた親鸞恵信尼ツアー4日報抄を音読した新聞遊び講座5ビスイを探したみらい大学糸魚川親子体験学科6高田世界館での越乃リュウ・トーク&ソング7ライオン像のある館で開いた「びよりSNAP」撮影会8妙高市で開かれた新聞の読み方講座

特集や連載 多角的に展開

上越地域の魅力を掘り下げた特集や連載

紙面ではメイン期間の2カ月間、毎週水曜の上越面を見開きで特別展開した。柱となったのは、越乃リュウさんによる特集「宝物を探して」。4回にわたり、上越市、糸魚川市、妙高市の見どころを訪ね、地域の魅力を再発見した。

当地自慢のスイーツや酒も大々的に紹介。えちごトキめき鉄道（トキ鉄）の観光列車「雪月花」の魅力や活用法を探る座談会のもようや、AI（人工知能）時代を生きる子どもたちの可能性を語り合った教育フォーラムを詳報した。

プレ期間の3月にはパウダースノーを求めて妙高市などを訪れるインバウンド（訪日外国客）の様子を連載「Yes we love」で取り上げ、上越地域への関心や滞在中の過ごし方などを詳しく聞いた。

5月以降も随時連載を掲載。現存する国内最古の映画館とされる高田世界館を取り上げた「物語はここから」、トキ鉄の奮闘を伝えた「レールの先へ」、前島密没後100年を機に人物像に迫った「近代化の礎築く」、初夏の糸魚川、妙高を歩いてまちのぬくもりに触れた「気ままに道めぐり」などで、ディープな見どころを発信。写真企画「映え！」は若者にも人気のおもしろスポットや味を探した。

来月から魚沼地域で

新潟日報社は「未来のチカラ」プロジェクトを8月1日～11月10日、魚沼地域（南魚沼、魚沼、十日町、湯沢、津南の3市2町）で開催します。上越地域で実施した未来への提言フォーラムや未来レターなどに引き続き取り組むほか、雪国らしい自然、文化、食、酒をPRできる企画を検討しています。ご期待ください。

すでに予定しているイベントやツアーはQRコード（下）のサイトでご案内しています。今後、新たに決まった企画も随時追加します。

市民の声

小回り利いたコラボ光る／新聞の周知する力を実感

未来のチカラin上越の取り組みについて、高田世界館を運営するNPO法人、街なか映画館再生委員会の岸田国昭さん(56)は「新潟日報が開催する事業はこれまで、自治体など大きな枠組みの中でのものが多かったように思うが、今回は地域を切り口にした小回りの利いたコラボレーションが光った。地場の活動に目を付け、街の活性化に積極的に関わってくれた。新聞社の発信力を改めて感じた。これからも一緒に活性化に取り組めたらうれしい」と話す。

「日報―まちメディア」となった旧今井染物屋で土日曜にイベントを運営している一般社団法人「雁木のまち再生」代表理事の関由有子さん(62)は「新聞社は周知する力が全く違うと感じた。期間中は染物屋の建物が平日も開いていたので、自由に立ち寄る人がたくさん来られた。中に入らないと分からないこの建物の魅力を伝えることができたと思う。ここを会場にして開いたカルチャースクールなどを通じ、さらに魅力的な場所になる可能性を感じた」という。

WSに参加 うれしい時間／地域を元気に 頑張る決意

埼玉県出身で、糸魚川市の市営「長者温泉ゆとり館」の運営を担う任意団体「波と母船」代表の屋村靖子さん(32)は提言フォーラムに向けた糸魚川チームのワークショップに参加。さまざまな職業や世代のメンバーと提言を練り、「立場が違うと感じていることも異なるし、その立場にならなければ分からないことも多くあると思う。いろいろ考えがある中で、皆さんが糸魚川が好きだということが分かり、うれしい時間になった」と振り返った。

越乃リュウさんが特集の取材で立ち寄った妙高市の「山の家カフェ」のオーナー、相沢伸郎さん(58)は「上越はもちろん、新潟市など下越からも新聞を見たという人が大勢来てくれ、反響の大きさに驚いている。越乃さんの目線を通じ、妙高市の自然の美しさや人の魅力を多くの読者に感じ取ってもらえたのではないか。光を当ててもらったのを機に、地域を元気にするためにますます頑張ろうと決意した」と力を込めた。

越乃リュウさん

上越地域への思いを語る越乃リュウさん

パワー 至る所で感じた

新潟市育ちの私は、新潟県のことをまるで知らなかった。そう痛感しました。同じ県なのに上越は全く別の色。同じ市でも場所ごとに違う表情を見せてくれました。

歴史や文化、自然、食など、自慢できるものが山ほどある。私たち旅人にそれを「知ってほしい」という住民の皆さんの熱意が、魅力を倍増させるんじゃないでしょうか。生まれ育った土地への愛情、受け継がれてきた伝統への敬意が、話しているとひしひしと伝わってきて、これはすごい宝物だなあと思いました。

2015年に開業した北陸新幹線のおかげで、私が暮らす東京から上越、妙高、糸魚川の3市までは本当に近くなりました。スピーディーな移動も楽ですが、あえて在来線に乗り、景色を見ながらリフレッシュする楽しみ方ができるのも、上越地域ならではだと思います。

真夏や雪が降り積もる冬にも来てみたい。どんなふうに暮らしているのか、興味が湧きました。地方は人口減少という悩みが共通しています。ただ、「できることからやろう」というパワーを上越の至る所で感じました。頑張る方たちの存在を知れば、誰しも応援したくなる。私も微力ながら、県内外の人たちにブログやインスタグラムで上越の魅力を発信し始めました。